

# 学校教育における生成 AI 活用(ステップ)について

東彼杵町教育委員会

## 1. 学校現場で生成 AI 活用を進める理由

なぜ今、学校に生成 AI が必要なのか。その理由は大きく分けて「教員の働き方」と「子どもの学び」の2つの側面からあり、下のとおりです。

視点	主な理由	期待される効果
社会・未来	AI 共存社会への準備	生成 AI が当たり前になる社会 (Society 5.0) で、AI を「使いこなす側」になるためのリテラシーを育む。
教員・校務	業務効率化と質の向上	文書作成、アイデア出し、校務処理の時間を短縮し、「子どもと向き合う時間」や「授業研究の時間」を確保する。
子ども・授業	個別最適な学びの実現	一人ひとりの興味や習熟度に合わせたフィードバックや、壁打ち相手としての活用により、探究心や創造性を高める。

## 2 進める手順

### (1)ステップ 1: 生成 AI を知る(啓発・環境整備)

まずは教職員が AI に対する心理的なハードルを下げ、リスクとベネフィットを正しく理解する段階

- **アクション:** 校内研修の実施、自治体のガイドライン確認、セキュリティ設定。
- **具体例:**
  - ChatGPT や Gemini などに触ってみる(「カレーのレシピを聞く」などの身近な話題から)。
  - 著作権や個人情報の取り扱い(入力してはいけない情報)を学ぶ。

### (2)ステップ 2: 校務に使う(働き方改革)

リスクの低い「個人情報を含まない校務」から活用を始め、時短効果を図る。

- **アクション:** 日々の事務作業のアシスタントとして活用。
- **具体例:**
  - **文書作成:** 「保護者へのお便りの挨拶文案」や「報告書の要約」を作成させる。
  - **企画出し:** 運動会のスローガン案、学級通信のタイトル案を 10 個出させる。
  - **Excel 補助:** 複雑な関数の組み立て方を AI に質問する。

### (3)ステップ 3: 教師が授業で使う(授業準備・支援)

教師が AI を「優秀な副担任」や「教材作成パートナー」として活用する。まだ子どもは直接使わせない。

- **アクション:** 授業準備の効率化と、授業中の提示資料としての活用。
- **具体例:**
  - **授業案:** 「小学 5 年生向けの SDGs 導入の授業案」を構成させる。
  - **教材作成:** 英語の長文問題の作成、理科の実験手順のチェックリスト作成。
  - **思考の整理:** 授業の導入で使う「子どもが興味を惹くクイズ」を考えさせる。

### (4)ステップ 4: 授業で子どもにも使わせる(探究・創造)

最終段階として、子ども自身が AI をツールとして使わせる。ここでは「ハルシネーション(嘘)」を見抜く批判的思考力も同時に養う。

- **アクション:** 調べ学習、創作活動、プログラミング、壁打ち相手。
- **具体例:**
  - **壁打ち(思考の深化):** 自分の意見に対する「反論」を AI に出させ、考えを深める。
  - **英会話:** AI を相手に英会話の練習をする。
  - **創造活動:** 物語の続きを考える、プログラミングのコードエラーを見つける。
  - **注意点:** 「AI の答えを鵜呑みにせず、必ず裏付けを取る(ファクトチェック)」ことを徹底指導する。

## 4 留意点

- (1) 東彼杵町情報セキュリティポリシーを理解し、遵守する。特に、個人情報にあたる文書分類を把握し、活用する。
- (2) 校長は、生成AI活用に関するガイドライン（文科省 令和6年12月26日公表）等を参考に、研修に努め、生成AI利用についてのチェックシートを提出させるなど職員の利用に関して適切な管理を行う。